

学期 / Semester	2017年度 / Academic Year 1クオ ーター / First Quarter	曜日・校時 / Day・Period	金 / Fri 3, 金 / Fri 4
開講期間 / Class period	2017/04/06 ~ 2017/05/26		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20170587049701	科目番号 / Subject code	05870497
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	文化と対人関係 (対人関係の人類学) / The Anthropology of Interpersonal Relations		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	波佐間 逸博 / Itsuhiro Hazama, 北村 史 / Kitamura Fumito		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	波佐間 逸博 / Itsuhiro Hazama		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	波佐間 逸博 / Itsuhiro Hazama		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育C棟16 / RoomC-16		
対象学生 (クラス等) / Object Student	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	hazama@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	多文化社会学部 (総合教育研究棟) 11階 波佐間研究室		
担当教員TEL/Tel	095-819-2922		
担当教員オフィスアワー/Office hours	月?金 9:00?17:00 (事前にメールで確認してください)		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	対人コミュニケーションに関心があり、日常性の構造を観察にもとづいてとらえなおすフィールドワークに魅力を感じている学生を対象とします。授業では、アフリカの狩猟採集民や牧畜民、農耕民のコミュニケーションに関する具体的な事実を理解しながら、言語的・非言語的コミュニケーションの多様性と普遍性がどのように生成されるかについて、受講生の一人ひとりがオリジナルに、根源から思考することを目指します。		
授業到達目標/Goal	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活での出来事をもとに、自己のコミュニケーションの規定性を内発的に探求できる(?,?)。 ・異文化における対人関係の意味を多面的・分析的に吟味できる(?,?)。 ・コミュニケーションの自然誌記述の方法を説明できる(?)。 		
授業方法 (学習指導法) /Method	<ul style="list-style-type: none"> ・講義と事例学習(参考文献やDVDを使用する)。 ・インタラクション研究の関心を集めている最先端のトピックを取り入れる。 		
授業内容/Class outline/Con	授業の1回目はオリエンテーション。第2回から第13回までは、コミュニケーションの身体モデル、非言語コミュニケーション、オーラリティといったテーマをもうけて講義およびワーク(ライティング、読み合わせ、グループワーク、質疑応答)をおこないます。		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review	講義資料や予復習の課題、連絡事項などをLACS上に掲載するので、各自確認してください。		
キーワード/Key word	アフリカ、共在、会話、出会い、心		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	波佐間逸博 『牧畜世界の共生論理：カリモジョンとドドスの民族誌』京都大学学術出版会, 2015年 木村大治 (編) 『動物と出会う?: 出会いの相互行為』ナカニシヤ出版, 2015年 木村大治 (編) 『動物と出会う?: 心と社会の生成』ナカニシヤ出版, 2015年		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	授業への参加状況 (小レポート提出・グループワークへの参加と発表) 70% 最終レポート30%		
受講要件 (履修条件) /Requirements			
アクセシビリティ/Accessibility	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場 (障がい学生支援室) 連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp		
備考 (URL) /Remarks(URL)			
学生へのメッセージ/Message for students			
授業計画詳細 / Course Schedule			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回 (4/7)	オリエンテーション		
第2回 (4/7)	コミュニケーションの身体モデル?: アフリカの伝統音楽		
第3回 (4/14)	コミュニケーションの身体モデル?: 「会話の格率」は普遍的か?		
第4回 (4/14)	コミュニケーションの身体モデル?: 関連性からの離脱		
第5回 (4/21)	コミュニケーションの身体モデル?: まとめと質疑応答		
第6回 (4/21)	非言語コミュニケーション?: 感情を表現する発声は文化を越えて通じるか?		

第7回 (4/28)	非言語コミュニケーション?: 声と人称の拡散空間
第8回 (4/28)	非言語コミュニケーション?: コール&レスポンスから反構造へ
第9回 (5/12)	非言語コミュニケーション?: まとめと質疑応答
第10回 (5/12)	オーラリティ?: 文字の文化と声の文化
第11回 (5/19)	オーラリティ?: 婚資交渉におけるメタ・メッセージ
第12回 (5/19)	オーラリティ?: 牧童が歌う存在の詩
第13回 (5/26)	オーラリティ?: まとめと質疑応答
第14回 (5/26)	講義全体の総括
第15回 (6/2)	最終レポート作成

学期 / Semester	2017年度 / Academic Year 3ク ォーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	金 / Fri 3, 金 / Fri 4
開講期間 / Class period	2017/09/29 ~ 2017/11/24		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20170587049901	科目番号 / Subject code	05870499
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	文化と対人関係 (身体関係論) / Embodied Relating		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	北村 史 / Kitamura Fumito		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	北村 史 / Kitamura Fumito		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	北村 史 / Kitamura Fumito		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟11 / RoomA-11, 学生プラザ1F 多目的室1		
対象学生 (クラス等) / Object Student	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	kitamura@nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Laboratory	文教キャンパスA&TLab爽創館 オープンラボ1		
担当教員TEL/Tel	095-819-2455		
担当教員オフィスアワー/Office hours	月曜日?金曜日の (16:00?17:00)		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	我々の日常的なコミュニケーション活動において、言語的な意味内容は重要です。しかしながら、我々が他者のことを「わかる」とき、利用しているのは単に言語的な情報だけでなく、相手の表情やジェスチャーや姿勢などからも豊かな意味をもってメッセージが伝わっていると考えられます。そういった身体の機能の重要性の一方で、我々は身体の使い方を学ぶことは少なく、無意識のうちに慣れてくせのようになった身体の使い方に気づくことすらありません。本授業では、実際に身体を動かすワークを通じて、自分自身の身体感覚に意識を向け、コミュニケーションにおける身体の役割に気づき、自分自身のコミュニケーションスタイルを意識して、効果的なコミュニケーションをできるようにすることを目指します。また、「わかる」ということにおける身体の機能に注目したワークショップを履修者全員で企画実施し、実践的に身体を活用した学びに取り組みます。		
授業到達目標/Goal	a. 自分のコミュニケーションスタイルに気づく(???) b. 自分の身体的体験を言葉にできる(?) c. 他者との関わりにおいて、自己表現を効果的に行うことができる(???) d. 非言語行動、身体化された知識、感覚の共有など、授業で紹介された考え方について整理して説明できる(?) ()内の数字は全学モジュール目標の番号と対応		
授業方法 (学習指導法) /Method	本授業では、座学で基礎的な事柄を学ぶことと並行して、実際に自分の身体を動かす体験学習を多く行います。座学部分については、授業外学習時間を確保するためにも、予習として動画視聴をしてもらうことがあります。座学の成果および知識定着の確認は選択式および記述式の小テストによって行います。一方、体験学習においては身体を動かしたり、声を出したり、さまざまな手法をつかって自分の身体に意識を向けて、他者とコミュニケーションをはかる活動を行います。体験学習の成果については自身の体験を言語的にフィードバックする記述式の振り返りシートを記入して確認します。 本授業は体験学習に十分な質と時間を確保するために、2コマ連続(3限・4限)の授業として、全授業回を8週間で完了します。クラス規模を30人程度とするため、履修希望者が多い場合には、「木曜日クラス」と「金曜日クラス」の2つに分けて実施します。クラス分けについては、メンバーに偏りが無いように分けるため、希望を受けることはできません。 毎回の小課題に加えて、最後に総括のためのレポート課題があります。期末試験は実施しません。		
授業内容/Class outline/Con	第1回?8回は、身体とコミュニケーションについての基礎的な事柄について座学と体験学習を交えて学んでいきます。第9回?14回は、身体、長崎、コミュニケーション、学び、というキーワードをもとにして履修者全員でワークショップを企画して実施します。第15回はワークショップの振り返り、第16回は授業の振り返りとまとめレポート課題についての説明を行います。		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review	毎回の授業後に予習復習のための課題を知らせます。課題には以下のものが含まれます。 ?身体体験ログの作成、?資料を閲覧視聴した後の掲示板ディスカッション、?グループでの準備活動		
キーワード/Key word	からだ言葉、ボディ・スキーマ、身体化、非言語行動、ワークショップ		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	購入指定する教科書はありません。以下の文献を主な参考書とします。 サンドラ・ブレイクスリー、マシューブレイクスリー「脳の中の身体地図?ボディ・マップのおかげで、たいていのことがうまくいくわけ」 インターシフト 2009 生田久美子「わざ言語-感覚の共有を通しての『学び』へ」 慶應義塾大学出版会 2011 鴻上尚史「発声と身体のレッスン」 ちくま文庫 2012 佐々木正人「からだ：認識の原点」 東京大学出版会 2008 鯨岡峻「ひとがひとをわかるといふこと」 ミネルヴァ書房 2006 得丸さと子「TAEによる文章表現ワークブック」2008 荻宿俊文、佐伯胖、高木光太郎「まなびほぐしのデザイン」 東京大学出版会 2012		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	(身体体験ログ5点×6回) + (予習復習課題5点×5回) + (知識定着確認テスト10点) + (プレゼンテーション10点) + (体験学習やグループワークへの取り組み10点) + (レポート課題15点) =100点満点のうち、60点以上を合格とします。		

受講要件（履修条件）/Requirements	<ul style="list-style-type: none"> ・一つひとつの体験を大事に、集中して授業に参加すること ・うまくできなくても、やってみようとする ・自らの知性を発揮することを楽しんで、建設的な学び合いができること ・授業内外でテーマについて考え、学ぶ（予習、復習、課題、グループワーク）ために時間をつかうこと（週平均3時間程度）
アクセシビリティ/Accessibility	<p>長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。</p> <p>アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp</p>
備考（URL）/Remarks(URL)	
学生へのメッセージ/Message for students	<p>いろいろな姿勢や動きをする体験学習が多いので、授業の際は、からだを動かしても気にならない服装で参加してください。からだを締め付ける服装やスカート等は避けてください。また、本授業では授業の成果を検討して授業内容の改善につなげるために、調査に協力してもらおうがありますが、協力するかどうかはその都度各自で選択できます。</p>
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	オリエンテーション アイスブレイク からだ言葉
第2回	自分の身体とのかかわり? TAEによる自己表現の導入
第3回	ボディ・マップ ボディ・スキーマ ペリパーソナルスペース
第4回	自分の身体とのかかわり?
第5回	感覚の共有と学び?
第6回	他者とのかかわり?
第7回	感覚の共有と学び?
第8回	他者とのかかわり?
第9回	ワークショップの構想?(グループワーク)
第10回	ワークショップの構想?(グループワーク)
第11回	ワークショップ案のコンペ(プレゼンテーション)
第12回	ワークショップの準備
第13回	ワークショップ実施
第14回	ワークショップ実施
第15回	ワークショップのふりかえり
第16回	授業のまとめ

学期 / Semester	2017年度 / Academic Year 3ク ォーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 3, 木 / Thu 4
開講期間 / Class period	2017/09/29 ~ 2017/11/16		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20170587049902	科目番号 / Subject code	05870499
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	文化と対人関係 (身体関係論) / Embodied Relating		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	北村 史 / Kitamura Fumito		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	北村 史 / Kitamura Fumito		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	北村 史 / Kitamura Fumito		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟11 / RoomA-11, 学生プラザ1F 多目的室1		
対象学生 (クラス等) / Object Student	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	kitamura@nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Laboratory	文教キャンパスA&TLab爽創館 オープンラボ1		
担当教員TEL/Tel	095-819-2455		
担当教員オフィスアワー/Office hours	月曜日?金曜日の (16:00?17:00)		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	我々の日常的なコミュニケーション活動において、言語的な意味内容は重要です。しかしながら、我々が他者のことを「わかる」とき、利用しているのは単に言語的な情報だけでなく、相手の表情やジェスチャーや姿勢などからも豊かな意味をもってメッセージが伝わっていると考えられます。そういった身体の機能の重要さの一方で、我々は身体の使い方を学ぶことは少なく、無意識のうちに慣れてくせのようになった身体の使い方に気づくことすらあまりありません。 本授業では、実際に身体を動かすワークを通じて、自分自身の身体感覚に意識を向け、コミュニケーションにおける身体の役割に気づき、自分自身のコミュニケーションスタイルを意識して、効果的なコミュニケーションをできるようになることを目指します。また、「わかる」ということにおける身体の機能に注目したワークショップを履修者全員で企画実施し、実践的に身体を活用した学びに取り組みます。		
授業到達目標/Goal	a. 自分のコミュニケーションスタイルに気づく(???) b. 自分の身体的体験を言葉にできる(?) c. 他者との関わりにおいて、自己表現を効果的に行うことができる(???) d. 非言語行動、身体化された知識、感覚の共有など、授業で紹介された考え方について整理して説明できる(?) ()内の数字は全学モジュール目標の番号と対応		
授業方法 (学習指導法) /Method	本授業では、座学で基礎的な事柄を学ぶことと並行して、実際に自分の身体を動かす体験学習を多く行います。座学部分については、授業外学習時間を確保するためにも、予習として動画視聴をしてもらうことがあります。座学の成果および知識定着の確認は選択式および記述式の小テストによって行います。一方、体験学習においては身体を動かしたり、声を出したり、さまざまな手法をつかって自分の身体に意識を向けて、他者とコミュニケーションをはかる活動を行います。体験学習の成果については自身の体験を言語的にフィードバックする記述式の振り返りシートを記入して確認します。 本授業は体験学習に十分な質と時間を確保するために、2コマ連続(3限・4限)の授業として、全授業回を8週間で完了します。クラス規模を30人程度とするため、履修希望者が多い場合には、「木曜日クラス」と「金曜日クラス」の2つに分けて実施します。クラス分けについては、メンバーに偏りが無いように分けるため、希望を受けることはできません。 毎回の小課題に加えて、最後に総括のためのレポート課題があります。期末試験は実施しません。		
授業内容/Class outline/Con	第1回?8回は、身体とコミュニケーションについての基礎的な事柄について座学と体験学習を交えて学んでいきます。第9回?14回は、身体、長崎、コミュニケーション、学び、というキーワードをもとにして履修者全員でワークショップを企画して実施します。第15回はワークショップの振り返り、第16回は授業の振り返りとまとめとレポート課題についての説明を行います。		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review	毎回の授業後に予習復習のための課題を知らせます。課題には以下のものが含まれます。 ?身体体験ログの作成、?資料を閲覧視聴した後の掲示板ディスカッション、?グループでの準備活動		
キーワード/Key word	からだ言葉、ボディ・スキーマ、身体化、非言語行動、ワークショップ		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	購入指定する教科書はありません。以下の文献を主な参考書とします。 サンドラ・ブレイクスリー、マシューブレイクスリー「脳の中の身体地図?ボディ・マップのおかげで、たいていのことがうまくいくわけ」 インターシフト 2009 生田久美子「わざ言語-感覚の共有を通しての『学び』へ」 慶應義塾大学出版会 2011 鴻上尚史「発声と身体のレッスン」 ちくま文庫 2012 佐々木正人「からだ：認識の原点」 東京大学出版会 2008 鯨岡峻「ひとがひとをわかるといふこと」 ミネルヴァ書房 2006 得丸さと子「TAEによる文章表現ワークブック」2008 苅宿俊文、佐伯胖、高木光太郎「まなびほぐしのデザイン」 東京大学出版会 2012		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	(身体体験ログ5点×6回) + (予習復習課題5点×5回) + (知識定着確認テスト10点) + (プレゼンテーション10点) + (体験学習やグループワークへの取り組み10点) + (レポート課題15点) =100点満点のうち、60点以上を合格とします。		

受講要件（履修条件）/Requirements	<ul style="list-style-type: none"> ・一つひとつの体験を大事に、集中して授業に参加すること ・うまくできなくても、やってみようとする ・自らの知性を発揮することを楽しんで、建設的な学び合いができること ・授業内外でテーマについて考え、学ぶ（予習、復習、課題、グループワーク）ために時間をつかうこと（週平均3時間程度）
アクセシビリティ/Accessibility	<p>長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。</p> <p>アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp</p>
備考（URL）/Remarks(URL)	
学生へのメッセージ/Message for students	<p>いろいろな姿勢や動きをする体験学習が多いので、授業の際は、からだを動かしても気にならない服装で参加してください。からだを締め付ける服装やスカート等は避けてください。また、本授業では授業の成果を検討して授業内容の改善につなげるために、調査に協力してもらうことがあります。</p>
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	オリエンテーション アイスブレイク からだ言葉
第2回	自分の身体とのかかわり? TAEによる自己表現の導入
第3回	ボディ・マップ ボディ・スキーマ ペリパーソナルスペース
第4回	自分の身体とのかかわり?
第5回	感覚の共有と学び?
第6回	他者とのかかわり?
第7回	感覚の共有と学び?
第8回	他者とのかかわり?
第9回	ワークショップの構想?(グループワーク)
第10回	ワークショップの構想?(グループワーク)
第11回	ワークショップ案のコンペ(プレゼンテーション)
第12回	ワークショップの準備
第13回	ワークショップ実施
第14回	ワークショップ実施
第15回	ワークショップのふりかえり
第16回	授業のまとめ

学期 / Semester	2017年度 / Academic Year 4クオ ーター / Fourth Quarter	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 3, 木 / Thu 4
開講期間 / Class period	2017/11/28 ~ 2018/02/01		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20170587050101	科目番号 / Subject code	05870501
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	文化と対人関係 (異文化対応の問題と解決策) / The Problems and Solutions for Cross-Cultural Correspondence		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	廣江 顕 / Akira Hiroe, 稲田 俊明 / Toshiaki Inada, 北村 史 / Kitamura Fumito, 西原 俊明 / Nishihara Toshiaki		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	廣江 顕 / Akira Hiroe		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	廣江 顕 / Akira Hiroe, 稲田 俊明 / Toshiaki Inada, 隈上 麻衣 / Kumagami Mai, 西原 俊明 / Nishihara Toshiaki		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育G棟38 / RoomG-38		
対象学生 (クラス等) / Object Student			
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	inadat nagasaki-u.ac.jp (稲田) t-nishi nagasaki-u.ac.jp (西原) ahiroe nagasaki-u.ac.jp (廣江) a-okuda nagasaki-u.ac.jp (奥田) (メールを送信する際は を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Laboratory			
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours	各教員へメールにて連絡をし、アポイントを取る。		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	異文化理解をするうえで、「衣」「食」といった自分にとって身近な話題から「宗教」や「政治」などの話題まで様々な方向から異文化について考えることができる。その中でも「言語」は、その国・地域の文化や風習と密接な関わりをもっている。この授業では、特に日本語、英語という言語を起点にし、日英の言語文化の共通点、相違点を比較検討しながら異文化について理解を深めることをねらいとしている。		
授業到達目標/Goal	アクティブラーニングを取り入れた授業方法を取り、以下の4点を到達目標とする。 1) 学生自身が、自主的に学習目標を立ち上げ探究する力をつける。?? 2) 適切な学習計画を実行し、仲間と議論、熟考すること通し多様性を理解する能力を身につける。?? 3) 学習成果を相互的に評価し、相互啓発志向を高めることを目標とする。?? 4) 以上の3点を通して相互の信頼、尊敬及び扶助、表現の自由、他者の意見の受容を獲得する。?? 5) 長崎県内の課題を整理して問題点とその解決案を発表できる。?		
授業方法 (学習指導法) /Method	この授業では、講義、グループ活動、発表を通して言語文化についての知識を深めていく。		
授業内容/Class outline/Con	この授業は英語という言語を通して言語の特性、文化などの知識を深めます。 第5回から7回は、語学教育/学習という身近な話題を取り入れ、長崎県内の語学教育/学習を事例として紹介しながら地域と語学についての関係性について学ぶ。 また、アクティブラーニングを導入し、主体的に学ぶ姿勢を育成します。		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review			
キーワード/Key word	言語、文化、長崎県での語学教育、共生思想		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	特定の教科書は採用しない。		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	授業態度 (グループディスカッションでの積極的発言等) 40% レポート 60%		
受講要件 (履修条件) /Requirements	各人が 1) プレゼンテーションをする 2) ディベートに参加する 3) レポートを書く 4) 授業外学習に週平均2時間程度を充てること、参考資料をきちんと読むこと。		
アクセシビリティ /Accessibility	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp		
備考 (URL) /Remarks(URL)			
学生へのメッセージ/Message for students			
授業計画詳細 / Course Schedule			

回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	オリエンテーション 授業の概要の説明
第2回	担当教員：稲田 言語の特性1「日本語はあいまいか？」 1) 日英語の表現法の違いについて、具体例を比較しながら、考察する。 2) 日英語を中心にして、言語一般の仕組みと表現法の関係について概観する。 3) 講義を参考にして、他の具体例についてグループで調べて、分析する。
第3回	担当教員：稲田 言語の特性2「言語が語るのは現実の世界か？」 1) ジルバル語のキャテゴリー化を参考にして、「仮想世界モデル」について説明する。 2) ステレオタイプ化と「役割語」について、先行研究を参考にして、実例を考察する。 3) 講義を参考にして、他の具体例についてグループで調べて、分析する。
第4回	担当教員：稲田 言語の特性3「発話の意図はどうして分かるのか？」 1) シェイクスピアの「ジュリアス・シーザー」を見て、言外の意味について考察する。 2) 文脈と発話の意図を算出する一般的な法則「関連性原理」を概観する。 3) 具体例を見ながら、文脈と言外の意味の関係について、グループで分析する。
第5回	担当教員：奥田 語学教育：「日本における語学教育の歴史」 1) 語学教育研究の概論：中学校、高校における語学教育の目的と歴史を概観する。 2) 長崎における語学教育：長崎の中学校、高校での語学教育を事例として紹介する。 3) 諸外国における語学教育：韓国、中国、カナダ、アメリカなど諸外国における語学教育を事例として紹介する。 4) これまで受けた語学教育について：本日の講義を踏まえて、これまで自分が受けた語学教育について思い出し、良かった点、改善点などをディスカッションする。また、そこから中学生にとって最良の語学教育とは何かについて考え、長崎県の中学生にどのような語学教育を提案できるのかグループごとに発表する。
第6回	担当教員：奥田 語学教育2「高等教育における語学教育の歴史」 1) 高等教育における語学教育研究の概論：特にICTを使用した語学教育の目的と歴史的遷移について紹介する。 2) ICTを活用した語学教育：長崎大学や他大学の事例を紹介する。 3) 期待する語学教育について：自分にとってどんな語学教育を理想としているのかについてディスカッションを行う。また、そこから高校生にとって最良の語学教育とは何かについて考え、長崎県の高中生にどのような語学教育を提案できるのかグループごとに発表する。
第7回	担当教員：奥田 語学教育3「語学学習に必要なものとは？」 1) 学習理論：自己調整学習、協調学習などの各理論について理解する。 2) 自分に適した学習方略：自分の強み、弱みを客観的に分析し、自分に適した学習方略が何かについて考え、ディスカッションを行う。
第8回	担当教員：西原 英語の文化1 日本人英語学習者の発話と英語母語話者の発話を比較して言語表現に見られる文化的特徴を見いだす作業を行う。また、Pragmatic failure、Face Threatening Actの観点から表現パターンを考察する。
第9回	担当教員：西原 英語の文化2 「励まし」「断り」などの言語場面に見られる表現形式の特徴について、資料をもとにグループディスカッションを行い、英語と日本語の差異、特徴について理解する。
第10回	担当教員：西原 英語の文化3 英語と日本語の広告文の特徴について、資料をもとにグループディスカッションを行い、英語と日本語の差異、特徴について理解する。
第11回	担当教員：廣江 異文化理解の諸問題1 1) 「異文化論」の始まり いつ頃から「異文化」という用語が使われ出したのか。その起源を辿りながら、異文化理解に必要な普遍的視点というべき視座を探る試みを行う。 2) ステレオタイプ論の氾濫?人種・マスメディア? 日常に溢れるステレオタイプ的なものの捉え方の具体例を、グループで可能な限り出し合い、そのイメージがどうやって作られ浸透してきたのかを分析し議論する。 3) 反ステレオタイプ論 Lippmann(1987)等を参考にしながらステレオタイプ論の検証を行い、固定化した観念やイメージをそれが発生した歴史的場面から問い直し、ステレオタイプを相対化する試みを行う。

第12回	<p>担当教員：廣江 異文化理解の諸問題2</p> <p>1) グローバル化に伴う日本的諸問題 日本人の「国際感覚」、「概念的理解」、「共感」、「コミュニケーション・バッファー」といった用語をキーワードとして、グローバル化に伴う一般的日本人にありがちな陥穽について議論する。</p> <p>2) 異文化理解における「共感」の位置付け Rogers(1984)やDamen(1987)を参考にしながら、異文化理解における「共感」を発展的に捉える試みを行う。</p> <p>3) 異文化間における文化的配慮とその意義 異文化間における解釈等の違いから生じる摩擦を回避する智慧としてのバッファーを、具体的事例にあたりながら、考察する契機としたい。</p>
第13回	<p>担当教員：廣江 異文化理解の諸問題3</p> <p>1) 身近な異文化：帰国子女・外国人留学生・ALTをめぐって 視点を変えて、日本社会及びその文化が異文化となっている帰国子女・外国人留学生・ALTを取り巻く現状や適応に焦点を当てる。</p> <p>2) あるALTの主張 日本人と言わば「国際結婚」した熊本県在住の元ALTの手記を読み、日本社会で暮らすアメリカ人の本音を考察する。</p> <p>3) Lost in Translation視聴 日本を異文化と捉えるアメリカ人の苦悩を映画化した作品を鑑賞し、日本社会あるいは日本文化のこういった点が異文化になり得るのかを考察し議論する。</p>
第14回	<p>担当教員：廣江 異文化理解を超えて</p> <p>1) Lost in Translation視聴 2) Lost in Translation視聴後、グループ・ディスカッションを行い、発表を行う。</p>
第15回	<p>担当教員：廣江、奥田 まとめ</p>